

市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民説明会（中央・関内）
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成30年7月17日（火）18時30分～20時30分 ・市民活動センター多目的室
所管部課名	企画財政部企画課
<p>【概要】</p> <p><出席者></p> <p>市：市長、副市長、教育長、総務部長、健康福祉部長、経済環境部長、企画財政部参与、建設部長、建設部参与、教育部長、教育部参与、大滝総合所長、議会事務局長、企画財政部長、企画課長、財政課長</p> <p>住民：13名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長挨拶 3. 総合計画概要説明 4. 意見交換 <p>【住民】</p> <p>一昨日、自治会でイベントを行った。約40年前は100人程度が参加していたが、近年は50人も参加しておらず、特に若者の参加が少ないと感じる。原因は、イベントのやり方や若者の意識変化などさまざま考えられるが、単一自治会の活動に限界を感じている。整理・統合として、三ツ和地区の自治会は1つになったが、少子高齢に伴う人口減少の中で、今後は活性化を促すテクニクとして自治会の統合や、市街地区や中央区など枠を越えた連携をしなければいけないと感じている。行政として、自治会に対する支援について何か考えはあるのか。</p> <p>【総務部長】</p> <p>どこの自治会でも、イベントの参加率が減少していると聞いているが、劇的に改善することは難しいのではないかと感じる。自治会の統合の相談を受けることもあり、活性化の手段として考えられる。しかし、各自治会の思いなどもあり、簡単には進まない状況がある。コミュニティや活動を維持するためには、組織の規模を考えることも重要であり、今後の課題になると思う。連合自治会とも協議しながら良い方向に進めたいと考えている。</p> <p>【住民】</p> <p>素晴らしい計画だとは思いますが、防災に関しては要望に応じてもらえていないものもある。大きな計画も良いが、具体的に1つ1つ解決してもらえなければ市民の協力は得られないと思う。</p> <p>具体的に言えば、避難道路にある交差点の信号設置を要望している。北海道に大きな看板をつけてもらったことで交通事故は減少したが、その後も事故は絶えない。いろいろ提案しているが、対応は難しいという回答であった。</p> <p>通学路について、田園せきないから関内小学校に通う児童が多いが、通学路に横断歩道がなく、道路が北海道の管轄であるため市は何もできないそうだが危険である。また、大雨で流出した土砂が側溝に詰まり、ふたを開けて除去しないといけないが、自転車に乗る子どもがいて危険である。安全安心面が不安だ。このようなところから1つ1つ取り組んでいって欲しい。</p>	

【建設部参与】

1点目の道路は、北海道の管轄である。2点目の通学路に関しては、私有地・市有地である畑を歩道として一部使用しているが、本来は道路の横にあるのが望ましいということは認識している。田園せきないの横の山へと続く道路は、未舗装の部分は市も管理しているが、お話しあった部分は北海道の管轄である。詰まる度に掃除をお願いするしかない状況で、根本的な解決のために北海道に要望しているが予算がつかない。いずれも問題の認識はしており、信号機についても、公安委員会に毎年要望しているが、新設は難しいとの見解である。行政でも要望しているが、昨今の予算状況により進みが遅いことはお詫びする。

【市長】

信号機の設置要望は数か所あるが、ほとんど設置されていない状況である。北海道内の設置枠が少なくなっており、大事故が起こったところなどから優先されてしまうため、伊達市での新設は難しい状況である。

現在の公共事業は最盛期の1/3である。一昨年の北見市にある常呂川での堤防決壊など、昨今は土砂堆積が問題になっている。伊達市の長流川や気門別川でも土砂堆積が起きている。国の予算自体は増額されているが、社会保障費がかさみ一般予算は減少している実情である。信号機設置も難しいが、要望は続けていく。

【住民】

先日の水害では、自宅のすぐそばの橋のところで閉塞し、近所に住む人がレスキュー隊に救助された。橋げたに流木が引っかかることで水が溢れてしまう。これから復旧作業が行われるが、国は原状復旧しか認めないとしている。大雨等で同じようなことは再び起こると思う。新総合計画には間に合わないと思うが、次回からは防災に取り組んで欲しい。

【市長】

今後、上流に砂防ダムが3基設置される予定である。1つは、流木をせき止めるが水は通す「スリットダム」の予定であり、完成すれば紋別川の安全性は担保できると考えられる。

【住民】

伊達市が良い地域だと思い23年前に伊達市に移住してきて、仕事で伊達市との関わりを持つようになった。自分の子どもにも伊達市に残って欲しいと思っている。高齢者施設や病院勤務を経て、現在はケアマネジャーの仕事で社会福祉協議会で行っている。医療や介護に関する施設や事業所が充実していることが移住の大きな理由になった。今もその選択は間違っていないと思っている。今後も伊達市に住み続けたい、住み続けられるまちだと思っている。

重点施策でも触れられている「伊達野菜のブランド化」は、すでに形になってきていると感じる。

「自分ごと」を重要だと思いつつも、若者の自治会参画ができていない現状がある。自分自身、仕事をしながら自治会活動に参加することは難しいが、消防団に所属している。「自分ごと」として伊達のまちの「安心・安全」のための活動をしたいと思っている人は、私の世代にもいるはずだが、今は子育てや仕事で参画できないのだと思う。私は責務を担い頑張っていきたい。

伊達野菜のことや、札幌市や函館市、千歳市に行きやすいことを発信すると良いのではないかと。シンポジウムなど市民の意見を聞く機会が多く持たれているようだが知らなかったため、広報誌だけでなく他の媒体からも情報を得られれば良い。今日の説明会においても、市民の参加者が少なくさびしい。活動そのもののアピールがもっとあれば良い。

【市長】

伊達市の元気の良さがあまり市外に伝わっていないと感じる。

【企画課長】

情報発信については、まちづくりのキーワードで設定している。情報を市民にどう届けるかについては、今後の重要な課題になると考えている。どれだけ良い取組を行っても伝わらなければ意味がないため、10年間で仕組を考えていきたい。

【市長】

市はこれまでも情報発信してきたが、市民に伝わっていない。企画課で情報発信について検討しているところである。

【住民】

説明会の案内が、町内会の会報の中に世帯数分入っていた。伊達市のことがわかればと思い、今日は参加している。

私は長年室蘭市で高校教員をしている。今、室蘭市でも子供たちが室蘭市のことをもっとよく知って、自らが室蘭市に戻り子どもを育てる必要性、まちづくりや市政に係る必要性について理解してもらい取組を行っている。生徒たちは「自分たちが生まれたまちが大好きだ」「戻ってきたい」「市外に進学して戻ってきても雇用が少ない」と言う。「仕事が少ないのであれば、起業すれば良いのではないか」「世界で一番住みやすい良いまちはどんなまちか」など「室蘭学」として授業を行っている。伊達市のまちづくりでも何かできれば良いと思い、今日は参加している。

92歳になる母親は九州に住んでいたが、2年前に伊達市に引っ越してきた。気候など「こんな良いまちはない、もっと広めなくてははいけない」と、友人に引っ越しを勧めている。それほど良いまちであるので、市民が参加してまちづくりを進められたら良いと思う。高校生や小中学生、子どもたちの教育が大きなキーポイントになると思う。子ども達には、まちを好きになり、戻ってきて起業し、いろいろなことに取り組みたいと思ってほしい。

【市長】

「起業」という観点は非常に重要である。

【教育長】

北海道大谷室蘭高等学校では、「室蘭学」に取り組んでいる。報道程度でしか理解していないが、素晴らしい取組だと思う。伊達市では、第七次総合計画策定にあたり高校生ワークショップを開催し、伊達市の高校生にも魅力を感じるまちについて発表してもらった。

2020年の小学校の学習指導要領改訂に向け、「だて学」として、市内の小中学校・高等学校で全ての子ども達に郷土について学習してもらうこととなっているが、住み続けたいと思う心を育む教育が必要だと思っている。ご指摘のとおり、仕事がないのであればつくれば良い。今から10年前は、Youtuberという職業は想像できなかったように、10年後の世の中は想像できない。新しい価値や生き方を自分で見出して作っていく力のある子どもたちを育む必要がある。その原点として教育があり、「だて学」の中で網羅して進めようと思っている。

【住民】

起業に関して、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」というコンテストがある。東京大学が会場になるため、「東大でプレゼンテーションをしよう」と呼びかけをし、私自身3年間参加している。そこでは、子ども達の発想は私たちの想像を越えていると実感する。世界で学び、伊

達市に戻って起業し、世界で一番良いまちだと言えるような人になって欲しい。

また、コミュニティ・スクールが進められ、地域住民で子ども達を育てる取組はすごく良いと思っている。

【住民】

医療関係について、伊達赤十字病院（以下、日赤）のことなど不満は多くある。

子どもたちに伊達市のことを教える「だて学」は良いと思う。先日テレビ番組で、地域のことを知る授業を行っている学校について取り上げていた。今、伊達市内の子ども達に伊達市の歴史を尋ねてみても、詳しく知らないのではないかと思う。学習をとおして、自治会への参加も増え、伊達市に魅力を感じるようになると思う。

【市長】

病院に対する不満を教えてください。

【住民】

個人病院から大きな病院を紹介してもらったとき、自分は日赤を紹介してほしいとは言えない。色々なうわさも耳にするが、日赤はもっと評判の良い病院になって欲しい。

【市長】

医師不足が深刻である。身近な医療圏を「1次医療」、大けがや脳の病気などの急性期を「2次医療」など、医療圏という表現をする。登別市・室蘭市・伊達市の3市3町で、2次医療圏ができています。この医療圏単位で全国と比較すると、3市3町の2次医療圏の医師の割合は高い。しかし、実際の生活圏で考えると、伊達市から室蘭市までは遠く厳しいと言える。

もう1点、医師の専門化の事情がある。診療科がより細分化され、東京都や札幌市に集中している。現在、室蘭市の3つの病院と伊達市の日赤病院の4つが救急を受け入れているが、地方に医師が来ないのが現実である。ある過疎地域の話だが、病院が、診療報酬の加点や補助金の対象になる2次救急の指定を受けたところ、急性期医療をしたくないと医師が辞めてしまったそうだ。室蘭市でも、診療科によっては同じことが起こり得る。医療は重要であると考え、満足度を高められるよう頑張っていきたいと思っている。

【住民】

総合計画の中で実施計画は別途とされている。今までの3年計画のことは市民に知らされているのか。計画の達成度について、市民へ開示はしているのか。

【企画課長】

実施計画は毎年更新している。この情報は市のホームページで公表し、市役所の企画課窓口で冊子の配布をしている。第六次総合計画の事業評価の進捗状況については、第七次総合計画策定にあたって個別事業の評価を行い、現在は95%以上の事業で着手済みである。

【住民】

まちづくりにおいては、住民が意識していない部分がある。説明会を開催する以上は、広報でのお知らせなど、住民が計画に対して意識や興味を持つようなことを行えば、より多くの良い意見が出てくるのではないかと思う。

まちづくりの基本目標5「市民力を生かしたまちづくり」が、まちを活性化するにあたって基本になると思う。市民に活力があれば、企業の進出や伊達市に住みたいという人も増えてくると思う。市民に活力がないまちは衰退していく。自治会は活動を拡大し、市民の活力にするた

め取り組んでいるが、伊達市役所や信金、大企業の退職者には協力性がない。まちで培ったノウハウを自治会の中で発揮して欲しい。役員のみ手が不足しており、自治会が分解するのではないかと懸念している。条例で退職者は3年間自治会に貢献することを定めて欲しいくらいだ。

【市長】

会合に参加する住民は、20年前と比べると激減しているが、世代の違いが原因ではないかと感じる。団塊の世代より後の世代では参加意識が弱い、前の世代では非常に強い。選挙も同様である。

公約では「コミュニティの再生」を掲げ、若者が参加する仕組みとして規律を重視する体育会型のコミュニティと、自由に参加でき自由に辞めることができるコミュニティの2つが必要だと考えている。また、それぞれの地域にコミュニティカフェをつくりたいと考えている。昼食や夕食、コーヒーなどを低価格で提供する、住宅を改装した20～30人が入れるカフェに、いろいろな人が出入りできるのが理想である。

人との交流を煩わしいと思い、家に引きこもってしまうことが、特に退職後の男性に多い。コミュニティに参加してもらうための取組として、コミュニティカフェと農園を考えており、男性には参加しやすい形態だと思う。教室などをきっかけに仲間をつくることから、自治会などに展開していく必要がある。退職後は自治会の役員を務めるよう命令はできないが、そういった取組から展開していきたい。コミュニティカフェの運営に興味のある方がいれば、チャレンジショップ支援事業補助金を利用して欲しい。

【経済環境部長】

チャレンジショップ支援事業補助金は、改装費や家賃に対し最大160万円の補助金を出すものである。以前は中心市街地のみ対象だったが、今年4月からは市街化区域まで広げている。自宅の改装や空き家の活用となれば、別の補助金も同時に利用できる。商工観光課で相談を受け付けているので相談してほしい。

【市長】

伊達市外から来た人から、有珠地区にコミュニティカフェをつくりたいという補助申請があった。建設部には中古住宅のリフォームに対する補助制度がある。建設部と環境経済部で移住者の支援を検討しているところである。コミュニティに関しては、従来と同じことに取り組んでも成果は出ない。70歳になってもスタートアップできるまちでありたいと考えている。

【住民】

本日の住民説明会は、30人は出席するのではないかと期待して来たが、結局少なくて気落ちしている。回覧や広報で周知するほか、中央区では6/26の自治会長会議の際に7/1付の回覧で案内があるから参加して欲しいと話したが、このような結果になり残念だ。今回だけでなく、全てのものに共通した現象だと感じている。住民説明会は、今後10年間のまちづくりに係る基本計画・推進計画を素案として示していただき、住民の意見を聞くという場である。しかし、中身について1つ1つ議論するのは難しいと思う。冒頭の説明に対して何か感じるものがあれば意見が出るだろうが、それも出ないということは内容が難しいということだろう。

計画の中で一番重要だと思うのは、P3「まちづくりの課題」の5つ目「地域コミュニティの活力が失われ、人のつながりが希薄化する」。「取組の姿勢」の1つ目「まちづくりを『自分ごと』と捉え、市民一人ひとりがまちづくりを担う意識をもち、まちの発展のために役割を担います」に尽きると思う。この素案は、市民アンケートやワークショップ、団体別懇談会などで出た意見を集約してつくられたものだ。この計画を推進するのは、「自分ごと」と意識している住民だ

が、どう意識を生み出すかが課題である。自治会の活性化だけでなく、伊達市全体の課題でもある。市長からはカフェなど人が集まる場所をつくるというアイデアがあったが、人が集まらなければ意味がない。他に何か良い案はないのか。みんなで集まって知恵を出していかなければいけないのではないか。

伊達市民はある程度この街に満足していると思う。伊達市は住みやすく、多くの点で恵まれているため、多少の不満があっても自ら何かを変えなくてはいけないという意識が生まれにくいのだと思う。平成30年7月の豪雨のような大きな問題がなければ、危機感を持ち結束する意識は生まれにくい。災害を望んでいるわけではないが、何かショックを与える必要があるのではないかと思う。市民が素案をじっくり読む機会を設け、アンケートなど意見を聞く必要があると思う。

【市長】

ご意見にもあったように、「他人ごと」だと思っている人が多いのではないかと危機感を持っている。昔はこのような会の参加者が多かったのは、苦情が多かったからでもある。選挙運動中にも苦情を受けた記憶がある。自治会や地域にとってはコミュニティがないと成り立たないことが多くある。コミュニティの取組を進めていきたい。

【住民】

昨年、市のサポートを受け、自分でコミュニティを立ち上げた。当時は1人だったが、現在はメンバーが20人にまで増え、NHKのラジオや広報などにも取り上げてもらっている。活動センターや図書館などいろいろな施設を利用しているが、事務所のようなものがあればよいのではないかと考えている。コミュニティカフェの構想は素晴らしいが、メンバーは他に仕事をしているため、自ら取り組むのは難しいと思う。活動の中で保有物品の管理に困っているが、保管スペースを借りる資金的余裕はなく、余裕スペースを利用できないか模索している現状である。コミュニティカフェの前段階での、コミュニティの活性化を検討して欲しい。

【市長】

東京都新宿区にある創業支援センターのようなイメージかと思う。そこは、資本のない小さい会社を立ち上げた場合、共通の事務所・備品を利用できるものである。コミュニティ活動を行うのであれば、共用の施設があれば良いと思う。既存施設の活用を検討していきたい。

【住民】

20年前室蘭市から移住してきた。伊達市は、雪が少なく天候がよく、住みやすいと思っている。参加者や役員のなり手不足は、自治会だけでなく職業団体でもよく聞くことかと思う。こういう場には集まらないが、コミュニケーションを取りたがる人はいると聞くので、在宅でもコミュニケーション可能なツールを工夫すると良いものではないか。クレームや不満を持つ人もいるかと思うが、このような集まりには出てこないため、その情報をインターネットやSNSでくみ取れば良いと思う。

【市長】

伝えてもらえない批判があると、改善のしようがない。批判はぜひ市役所で受け付ける。より良くするためには、批判を糧にしたい。

【住民】

総合計画を楽しみにしている。高齢福祉課と協働して、介護保険で賅いきれない部分の地域の支え合いとして、地域づくりを考えている。高齢者同士の支え合いでは限界が来ると思って

いる。「我が事・丸ごと」として、高齢者や障がい者、子育て中の人などみんなで支え合える地域にする、地域共生社会が近年目指されている。伊達市のまちづくりと足並みをそろえて、若い子育て世代を含めた地域づくりを行っていきたいと思っている。

【住民】

伊達市は地理的条件が良い。元から良い土地だったわけではなく、先人たちが開拓してくれたおかげである。その感謝の気持ちを持つ人が少ないと感じている。

【市長】

歴史に関して「伊達市史」があるが難しい。開拓の歴史についての本を子供向けにつくろうとしている。小さい子供から高齢者までぜひ読んでほしい。

【住民】

住民説明会の配布資料は、事前にどこかで見られるようになれば良い。

【企画課長】

素案については市のホームページに掲載している。パブリックコメント用に主な公共施設に冊子を置いている。